

大根島火山と鳥取県西部地震震源域に平行な断層の断層面における玄武岩岩脈の存在の意味

Daikon-island volcano and the basalt dike on the plane of a fault of the lineament of the western Tottori earthquake

浅見 真規[1]

Masanori Asami[1]

[1] なし

[1] none

<http://ss7.inet-osaka.or.jp/~asami/Daikon/index.html>

鳥取県西部地震震源域に平行な地表断層の電力中央研究所によるトレンチの壁面の井上大栄(2001)のスケッチ(注1)は、その断層面上に玄武岩岩脈の存在を示している。

ところが、井上大栄(2001)は断層面上の玄武岩岩脈の存在の意味について全く言及していない。井上大栄(2001)は原子力発電所の安全性に関して鳥取県西部におけるマグニチュード7規模の内陸地震の予測可能性に言及しただけである。

しかし、鳥取県西部地震震源域に平行な地表断層面上の玄武岩岩脈の存在の意味は重要である。なぜなら、台湾-宍道褶曲帯に属する宍道地溝と鳥取県西部地震震源域の延長線の交点に小規模玄武岩火山の大根島があるからである。尚、台湾-宍道褶曲帯の磁気異常の認められる地域(注2)は本州西部においては小規模玄武岩火山の分布と一致している。

(注1) 井上大栄(2001)：2000年鳥取県西部地震における地震断層の活動履歴調査. 電力中央研究所 2001年版研究年報, 106-107, 図3

<http://criepi.denken.or.jp/jpn/PR/Nenpo/2001J/01seika53.pdf>

(注2) 日本列島の地質編集委員会(1996)：日本列島の地質, 丸善株式会社, p.4-5, p.103